

きみのチカラが復興につながる



令和元年度
NPO強化による復興創生事業
チャレンジインターンシップ事業
事業報告書

主催 福島県 企画調整部文化スポーツ局文化振興課

共催 Coca-Cola BOTTLERS JAPAN INC. コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社



チャレンジインターンシップに参加されました生徒・学生の皆さんが、NPO法人の活動を通して有意義な時間を過ごされたことを心から嬉しく思います。これも、NPO法人の皆さまの丁寧かつ熱心な御指導の賜物だと大変感謝しております。

また、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社には企画の立案から学生の皆さんが生き生きと活動している動画の作成に至るまで、事業全般にわたり、厚い御支援をいただきました。

県では、今後も民間企業等と連携しながら、ふくしまの輝く未来を担う若者や地域に寄り添い様々な活動を展開されているNPO法人の支援などを通して、復興の加速化や地域の活性化に取り組んでまいります。

福島県企画調整部文化スポーツ局

局長 野地 誠

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、地域が抱える社会課題に対して、地域の皆さまとの協働による課題解決に向けた活動を展開しています。福島県では、社会で活躍する若者の育成と地域の活性化を主な目的とした本事業への協力を、2016年より県の御理解をいただき開始しました。

福島県の復興、そして地域の活性化を進めるうえで最も大切なことは、地元を支えたいと願う一人ひとりの想いです。

私たちコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、これからも飲料を通じて、より豊かでうるおいに満ちた明るい未来創りのサポートをしてまいります。

そして、人々の一生と日々の生活に寄り添い、人生のあらゆる場面においてハッピーな瞬間とさわやかさを提供する総合飲料企業を目指してまいります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

CSV推進部

部長 丸山 竜一郎



目次

▶ 受入れ団体・学生紹介	P 4
▶ 学生アンケート	P36
▶ 団体アンケート	P38

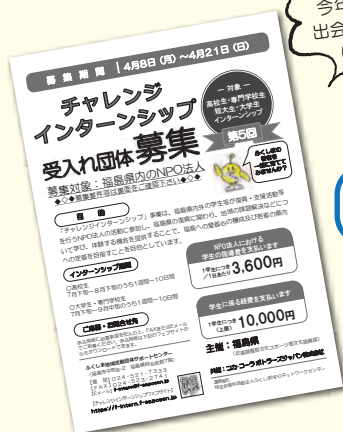


参加NPO法人

特定非営利活動法人 福島就労支援センター	P8	福島市	特定非営利活動法人 二本松市 がんばろう福島、 農業者等の会	P4
特定非営利活動法人 チームふくしま	P9		特定非営利活動法人 育ちの会 輝	P6
特定非営利活動法人 ビーンズふくしま	P10			
特定非営利活動法人 まごころサービス福島センター	P12			
特定非営利活動法人 元気になろう福島	P13			
特定非営利活動法人 ライフケア	P14			
特定非営利活動法人 福島ユニテッドスポーツクラブ	P15		伊達市 NPO法人 DASH	P5
特定非営利活動法人 いいざかサポーターズクラブ	P16			
		会津 坂下町		
		特定非営利活動法人 市民活動支援組織 NIVO		
		P26		
		郡山市	南相馬市 NPO法人 はらまちクラブ	P27
		特定非営利活動法人 ふよう士2100		
		P17		
		特定非営利活動法人 あんだんて		
		P18		
		特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ プチママン		
		P20		
		特定非営利活動法人 真・善・美		
		P22		
		認定NPO法人 キャリア・デザイナーズ		
		P23		
		特定非営利活動法人 ひいかあぶら		
		P24		
		いわき市	特定非営利活動法人 Global Mission Japan	P29
			特定非営利活動法人 中之作プロジェクト	P30
			特定非営利活動法人 青陽	P32
			特定非営利活動法人 いわき緊急サポートセンター	P34

当事業は、「若者の学び・体験支援」をテーマとし、県内で復興支援活動をしているNPOでユース（高校生・大学生・専門学校生）が自発的かつ意欲的に、10日程度のインターン活動を行うことを通して、福島県の復興・創生に若者が貢献することを応援します。また、インターン活動を通して、参加した若者自身が成長する機会となることも期待しています。

詳しくは [チャレンジインターンシップ 福島](https://f-intern.f-saposen.jp) [検索](#)
<https://f-intern.f-saposen.jp>



今年はどんな
出会いが待って
いるのか

4月8日(月)～4月21日(日)

受入れNPO法人募集

4月25日(木)～5月27日(月)

学生募集

6月2日(日)

開講式・マッチング会

ビッグバレットふくしま(郡山市)

6月14日(金)

受入れNPO法人決定

7月下旬～9月中旬

インターンシップ実施

10月14日(月・祝)

報告会・閉講式

ビッグバレットふくしま(郡山市)

※台風第19号のため中止

マッチング会では
興味を持ったNPO法人の方
から詳しく説明を
聞きました

夏休み

受入れ
NPO法人での
活動スタート!

県内24のNPO法人で
55名のインターン生が
活動に取り組みました

夏の活動
がんばるぞ
オーツ!



特定非営利活動法人
がんばろう福島、農業者等の会

所在地 二本松市新生町490

連絡先 0243-24-1001

URL <http://www.farm-n.jp/>

主な活動 福島県内54の農家で構成され、風評払拭、スタディファームなどを農家自らが実施しています。

受け入れ団体コメント

今回のインターンでは主に農作物の出荷作業等を体験してもらいました。真夏の暑い中行う慣れない作業はとても大変だったと思います。ですが今回参加してくれた2人は毎日一生懸命作業に取り組んでくれて、普段何気なく見過ごしている点に気づかせてもらったり、新しい意見を聞くことができたり、団体としても非常に助かりました。

今回の体験がこの先いつか、学生さんたちにとってプラスの経験になってもらえたら、と思います。



渡邊 泰生さん

福島大学1年／宮城県仙台市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

今回のインターンシップでは、主にきゅうりの収穫、選別や野菜の袋詰め、発送の手伝いを行いました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

インターンを行う前までは、農家の方々の主な仕事は農作物を作ることと考えていました。しかし、実際に参加してみると農作物を作ることに加え、消費者の方へ野菜を届けるための流通のことや、大学生や県外の方々へ福島の農業を伝えるスタディファームなどで幅広く活動がされていることを学びました。特にスタディファームでは、震災後の福島を農業面から学べる非常に興味湧くものになっていることが印象的でした。

私が1週間という短いインターン期間で学んだことは、これらのことを大学での活動に活かしていかなければならないということです。実際、私は授業の一環として、農業をテーマに調査などを行う予定ですが、今までは外部の人としてしか接することはありませんでした。今回のインターンやスタディファームで学び体感したことで、農家の方のリアルな声を知り、福島の農業について新しい視点で考えることができると感じました。



佐藤 茜奈さん

福島大学2年／秋田県にかほ市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

きゅうりの収穫、袋詰め、箱詰め、選別、追肥、箱づくり。農協、道の駅への出荷。ネット販売用野菜の箱詰め。スタディファームについてのお話を伺う。ネット販売についてのお話を伺う。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

このインターンシップで、少子高齢化による人材不足や震災による風評被害等の問題を抱える福島の農業について学びました。今では作物から放射能はほぼ検出されていないのに検査し続けているという現状に、風評被害の恐ろしさを知りました。団体では「顔の見える関係に風評被害なし」をモットーに、ネット販売により、農家から直接消費者に販売することも行っています。福島の農作物を応援している県外やリピーターのお客さんがいることを知りました。

農家での生活を1週間体験し、朝早くからの仕事や炎天・雨の中での仕事など、大変だと感じました。今回は興味がある農業を体験できて良かったです。様々な職業があり、それぞれの苦労や喜びがあると思うけれど、それぞれ学ぶことは色々あると思います。大学生のうちに様々な活動や経験をし、見聞を広めていきたいと思っています。



所在地 伊達市月館町月館字館ノ腰4番地1

連絡先 024-577-1030

URL <https://date-dash.jimdofree.com/>

主な活動 小学生の放課後生活を、安全で豊かに過ごし、健全に育成することを目標に活動しています。

受け入れ団体コメント

伊達市内の高校生1名に7日間活動いただきましたが、あまり小学生の放課後生活と縁はないとのことで、本人にとっても新鮮な体験になったと思います。体験活動最後の企画活動は本人の希望で、茶道体験の後子どもたちがペアとなり、かき氷などを使い「おもてなしをし合う」ものでした。誰かに作ってもらい、楽しく食べるのとは異なり、相手を意識してかき氷を作り、もてなす実践をしていました。子どもたちも職員も、学ぶことが多い事業となりました。



高橋 まりあさん

保原高等学校3年／伊達市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

「子ども遊びマスター」の実践。パレオパークの利用者支援、企画活動、イベント参加、児童クラブでの遊び、学習支援、生活について。児童クラブ館体験活動、クラブ館の利用者支援、遊びの企画書作成。科学教室補助作業、準備作業、活動補助。企画の実践。まとめ。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今まで子どもたちと接する機会がなく、話し方や接し方が分かりませんでしたが、いろいろな場所でお世話や支援活動をしたことで子どもたちの現状が分かり、小学生だけでなく、未就学児などの子どもとの接し方を知ることと、子どもの反応をよく見ることが大事だと感じました。また、実践の際に自分が使っている言葉と子どもの使う言葉が違うため、説明することが難しく、分かりやすい言葉で説明をするのが大変でしたが、今後どうしたら伝わるかなどを考えるきっかけになりました。企画の実施の時には、一から考えて実践するのが難しかったのですが、いろいろな視点で考えることができたので、視野を広くして行動をしたいです。

これからは他のボランティアの時や、日常生活の時には分かりやすい言葉で話をしようと思いました。そして、子どもの反応や様子をよくみて行動し、なにか問題があったらすぐに対応ができるようにしたいです。



特定非営利活動法人
育ちの会 輝

所在地 二本松市油井字中田30-5

連絡先 0243-24-7620

URL <http://www.npo-sodachinokai-kagayaki.com/>

主な活動 0歳から18歳までの障がい児の障がい状態の改善を専門とする通所支援事業所です。知的遊びや学習、機能訓練の支援を行っています。

受け入れ団体コメント

私たち職員がどのような想いで子どもたちと関わっているのかを、どうしたら学生さんたちに伝えられるか考えながら支援を行いました。

そのことにより、職員が初心にかえり、子どもたちの支援の向上につながり、私たちの良い刺激になりました。



佐倉 彩美さん

本宮高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもと遊び性格を知る。いろいろな場所に行き子どもと一緒に様々なことを学ぶ。障がい持ちの子どもの接し方を学んだ。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

このインターンシップで、子どもの性格は一人ひとり違い、個性が強いことや、個性がぶつかってしまうことを知りました。でもそのような時に、私はどんな対応をしたらいいのかなどを学びました。

私は将来、福祉など人に関わるような仕事がしたいと思っていたので、今回子どもたちと深く関わって学んだたくさんのことが、とても良い経験になりました。ここで得たコミュニケーション力を活かしつつも、またいろいろな仕事の体験などできたらいいなと思います。そして、自分に合った職業を選択することができたら良いと感じました。



服部 幸憲さん

本宮高等学校3年／二本松市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

重度や軽度な障がいをもった子どもたちと一緒に山に登ったり、天気がよく暑い日には湖や川で遊んだりし、一人ひとりによりそってふれ合う活動や施設の中で子どもたちと本を読んだりボールで遊んだりと様々なことをして一人ひとりの個性やどんな対応をすればなど考えながら活動しました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回の活動を通して障がいを持っている子どもたちがどのような生活や体験をして学んでいるのかを知ることができました。最初は、どのように接すればいいか不安でしたが、子どもたちの元気さから、不安と緊張が消えてとても楽しく活動できました。悪いことは悪いと分かる子やだだをこねる子などもありました。でも、しっかり言えばできる子もいました。そこで、障がいを持った人と関わる楽しさや大変さを学びました。

今回の活動で学んだことは、どんな障がいを持った子どもでも心をひらいてもらえるように努力をすれば、必ず心をひらいてくれるということです。そして、障がいを持っているから何もできないという考えは全く違い、言われたことをできる子や責任感が強くみんなをまとめることのできる力をもった子など、様々な子どもたちがいるということに気づくことができました。ここで学んだことを考えながら、身の周りの障がいを持つ子どもたちとふれ合いたいと思います。

増子 優人さん

本宮高等学校3年／本宮市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

様々な障がいを持った子どもたちとプールや鍾乳洞へ出掛けたり、工作をしたりしてふれ合いました。その際、子どもたちが困っていてもあえて手助けせずに自分で考えさせ解決させるということを意識して取り組みました。どうしても無理そうなときはヒントを出して解決への道筋を立てることもしました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

上手く言葉を使えない子や気持ちをコントロールできない子など、他にも障がいを持った子が家族のように生活していて、私のイメージと違ったので驚きました。子どもたちが困っている時や、喧嘩をしている時などはなるべく手助けをせずに自分たちで解決させることで考える力をつけさせている、という活動方針はとても良いものだと思います。また、一人ひとり接し方を変えないと上手くやっていけないということが分かりました。

障がいを持った子どもたちと接してきて分かりましたが、障がいを持って生活するのは本当に大変です。当たり前のことでも上手くできない中、協力しながら生活しているのを見て協力するのは大切だと改めて実感しました。これからは社会に出るので人との協調性を高めていきたいです。また、障がいをもった方を見かけたら手助けするようにしたいです。

設楽 夏帆さん

福島学院大学3年／福島市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちの遊びの補助と見守り。子どもたちの外出（お出かけ）の引率。おむつ交換や食事の介助。子どもと一緒に遊んだり、注意・声掛け。歩行訓練や言語訓練の手伝い・実施。掃除やご飯の準備の手伝い。うさぎや鳥の世話の手伝い。掲示物の作成の手伝い。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

私は今回の活動で、私たち周囲の大人が思っている以上に子どもたちはよく大人のことを見ており、なおかつ聡いのだということに気づきました。例えば、ニコッと笑うことで大人たちは何でもやってくれると思っている子に対して、今、子どもたちが成長するためだけではなく、もっと先の未来、自分で自分のことができるように、優しくするだけでなく時には厳しくすることも大切だと感じました。

私は今まで相手ができないことはすぐに手伝ってしまっていたので、今後そのような場面に出会ったときは、少し様子を見てから、全てやるのではなく時には厳しく接しようと思います。もし私が受け入れていただいた団体さんのようなところで働くことがあったならば、子どもたちの目先の成長に捉われるのではなく、将来のことを考えた上で何が最善なのか判断し、その子が選択する手伝いができれば良いと考えています。

特定非営利活動法人
福島就労支援センター

所在地 福島市宮代字宝田前2-4

連絡先 070-4419-8412

URL <https://fukushimashuro.org/>

主な活動 地域活性化や職業能力の推進、情報交換や地域間交流を通じて誰もが生き生きと生活できる社会の実現を目指しています。

受け入れ団体コメント

進藤さんはとても観察力のある学生でした。指示した事を自ら考えて、さらに最善の方法を模索する姿を見ると、活動を改善しなければいけない問題や気づきがたくさんありました。団体の職員にも変化や刺激があり、活動に取り組む姿勢や考え方が変わりました。教える事より教わる事の方が多く、ともに成長できる期間となりました。活動の価値、地域とのつながりなどをさらに磨いて私たちにしかできない活動にしていきたいと思いました。



進藤 海翔さん

福島大学2年／山形県酒田市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

主には、団体の企画したイベントの広報活動のお手伝いをさせていただきました。また、北沢又団地等にお住まいの方々とともに畑で野菜を収穫したり、その収穫した野菜の調理を通して交流するといった活動や、地域の子どもたちに無償で勉強を教えるという“スターセン”といった活動を行いました。

Q2. どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

活動を始める前は、NPOという団体がどのような理念のもとで様々な活動を行っているのかということ把握しかねていましたが、実際に活動をご一緒にさせていただくと、一つ一つの企画に目的があり、特に、年配の方々や女性、子どもなど社会的に弱い立場にある人々の支援を主に行っているといったように、対象としている立場の人々が明確になっているように感じました。NPOの鮮明な実像を学ぶことができたと思います。

活動と一緒にさせていただいたことを通して、地域が本当に求めていることを知るためには、その地域の人々と密接な関係を作り、座学を通してだけでは決して知り得ない地域の実情を把握することが大切であるということを改めて感じました。将来的に自分がいかなる立場の職業に就いても、このようにNPOが大切にしている姿勢を私自身も実践して、地域の発展に寄与できる取り組みを行っていけたらと思います。



特定非営利活動法人
チームふくしま

●受入れ団体・学生紹介

所在地 福島市野田町6-7-8 ツインコートB103

連絡先 024-563-7472

URL <http://www.sunflower-fukushima.com/>

観光振興、福祉雇用、防災・道徳教育を柱として、ひまわりの種を通じて思いやりや福島の魅力を知ってもらおうプロジェクトを行っています。

受け入れ団体コメント

学生にインターンとして来ていただいたことで、柔軟な新たな気づきを得られ、スタッフの成長に繋がり、また、NPOとは何なのか、どんな活動を行っている団体なのかを知っていただく貴重な機会となりました。普段の業務の中では、学生と時間をかけて接する機会があまり無いので、事務所全体がとても明るい雰囲気になり、スタッフの活気づけにもなりました。

今年度も受け入れ団体として関わらせていただきましてありがとうございました。



今野 実永さん

本宮高等学校2年／浪江町出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

クラロンの会社見学、福祉作業所「和」の施設見学。パソコンでツイッターの更新。封筒に判子を押す。ウエルカムボードの作成。福島ひまわり里親プロジェクト参加者へインタビューとそのまとめ。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

学んだことは、1人で挑戦するとすぐ終わってしまうが、皆で力を合わせれば、長く継続ができるし、そこからまた新しいことに挑戦することで、活動の幅が広がっていくことです。たくさんの出会いがあり話を聞くことで、社会問題や進路、障がい者についてなど本当にたくさんの情報を集めることができました。自身の価値観が変わり、自分の長所を伸ばし短所を減らせたため、本当に充実した7日間でした。

インターンシップに参加した友人たちと今回学んだことを話して、さらに自分の価値観が良い方へと変化するように、積極的に取り組んでいきます。自分の価値観がこの7日間で大いに変化しているので、身近にある問題や普段の生活について、もう一度改めて考えてみようと思います。そしてチームふくしまの福島ひまわり里親プロジェクトを地元にも広げていきたいと思っています。

会田 陽子さん

福島大学3年／宮城県富谷市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

本NPO法人と牧野ひまわり会がコラボレーションし、開催している「ひまわりフェスティバル」の準備、運営。本NPO法人の広報活動（SNSの更新、ウェブサイトの更新等）。連携している福祉作業所の訪問、見学、仕事体験。福島ひまわり里親プロジェクト参加者へのインタビュー。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

私が学んだことは、障がい者について知ることの大切さと、彼らにも得意なことがあり、それを通じて社会を支えているということです。今まで障がい者とふれ合う機会があまりなかったため、見た目で分からなくても、軽度の知的障がいを持っている方もいるとは知りませんでした。今回のように新しいことにチャレンジすることは、知見の幅を広げることができる良い機会になるということも分かりました。

まだまだ私のように障がい者について詳しく知らず、偏見を持っている人も多いと思うので、障がい者に対して理解があり、思いやりのある社会づくりにこれから貢献できるような行動を進んでいきたいと思いました。何事にもチャレンジすることが大切であり、それらは自分自身の成長をより促すものであるということが分かったので、これからは失敗を恐れず、積極的に新しいことに取り組んでいこうとも思いました。

特定非営利活動法人
ビーンズふくしま

所在地 福島市矢剣町22-5

連絡先 024-563-6255

URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

主な活動 様々な生きにくさを抱える子ども・若者たちが、本来持っている力を発揮できるようにしっかりと寄り添い続けています。

受け入れ団体コメント

今年度は3名の学生の皆さんを受け入れさせていただき、子どもたちと関わる一生懸命な姿と1日、1日成長していく吸収力に大きな刺激を受けました。当団体としても若い人たちの成長に関わらせていただくことで、自分たちが取り組んでいる事業の意義を再確認し、社会課題を伝えていくことの重要性を再認識いたしました。学生の皆さんにとって、これからの夢溢れる人生の一助になっていれば幸いです。本当にありがとうございました。



橋詰 友嘉さん

福島大学2年／栃木県栃木市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

みんなの家、子ども食堂、フリースクールの3つの活動を通して、子育て支援や子どもの活動のサポートを行いました。スタッフの方々からアドバイスをもらいながら、保護者の人の話を聞いたり、子どもたちの話を聞いたり、遊んだりしました。

Q2. どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

みんなの家では、子育て支援の大切さを実感しました。母親が子どもと離れて悩みを打ち明けることができる環境を作ること、虐待の防止になることが分かりました。そして子ども食堂では、子どものコミュニティを作り、子ども同士でふれ合う機会を設けることで、互いに影響し合い、成長をする助けをしていることが分かりました。フリースクールでは、学校ではなくともその子にあった成長の仕方があるということを知りました。

今回のインターンシップで体験したことは、全て自分が今まで体験したことのない世界でした。新しい世界を知ったことで、今まで自分が信じてきた世界が崩され、新たな世界が自分の中に広がり、今までより広い視野で物事を考えられるようになった気がします。今後はここで学んだことを活かし、目の前の事をもっと多角的な視点から考えていこうと思います。そして、今後も学ぶことを続け、自分の世界をどんどん広げていこうと思います。



古川 諒さん

本宮高等学校2年／二本松市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

主に子どもたちへの対応をさせていただきました。親御さんたちへの対応も業務に含まれていましたが、自身の年齢と立場からむずかしいものがありました。その他掃除や夏祭りの準備などもさせていただきました。また、夏祭り当日も参加させていただき、それまでに仲良くなった子たちと楽しく過ごせました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

自分は復興に関わる活動という意識があまりなく、育児というものに復興のイメージがありませんでした。しかし今回の活動を通し、復興にも様々な人たちがおり、それによって救われる人がいることを知りました。人を助けたいと思った時、取れる手段はいくらでもあるということを学べたと思います。また、他のスタッフの方々が常に笑顔だったのも気づいた点です。笑顔を向けられて嫌な人はいませんし、育児においては一番重要だと感じました。

今回の活動での学びを今後活かしたいことは2つあります。1つ目は何か目的を達成させる時、道は1つではないということを念頭に置き広い視野でみるということです。2つ目は笑顔で生活することです。常に前向きにというわけではありませんが、暗くなっている時も仕方ない時や実生活の中で人と接するのにも何をするにも笑顔でいることは大切だと思ったからです。



照井 裕香さん

本宮高等学校3年／二本松市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

主に親子への対応。夏祭りの準備、当日の片付けなど。部屋に飾る装飾物作り。お誕生会用製作物。開館準備と閉館後の後片付け。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

小さい子どもとの関わりが多く、慣れていない私には難しいことが多かったのですが、一人ひとり個性の違う子どもたちと関わることで新しい発見が見つけられて楽しかったです。また、スタッフの方々やお母さん方の話を聞くと、子育てに関する問題や施設を運営する際の課題点を直接知ることができて、良い経験になりました。今回、活動してコミュニケーション能力を高められたり得られたものが多く充実した活動でした。

今回学んだコミュニケーションの取り方は小さい子どもに限らず幅広い年代に活用できるし、子育てや社会進出がなかなかできないことへの悩みや課題を実際に体験しながら知ること、今後自分の将来の夢である公務員になったときに、問題視する部分に分かり勉強になりました。これからもインターンシップやボランティアなどに参加し、視野を広げていきたいです。



特定非営利活動法人
まごころサービス福島センター

所在地 福島市在庭坂字南林60-2

連絡先 024-573-7539

主な活動 誰もが安心して住み慣れた地域の中で生活し続けられるよう、市民参画による助け合い、支え合い、ふれ合い、活動の輪を広げています。

受け入れ団体コメント

当法人のミッションである、「誰もが安心して住み続けられ共に支え合い、助け合っていける共生社会をつくっていくこと」を、インターン生二人に子どもから高齢者まで接し、幅広い関わりを持つことで学んでいただけたのではないかと感じています。

明るく大変熱心に参加いただいたここでの活動を、今後の進路に少しでもお役立ていただき、NPOという幅広い活動を理解することで、引き続き支援していただければと思っております。



山口 晴夏さん

本宮高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップでは、高齢者の方々と一緒に遊んだり、お手伝いをしました。お昼は皆さんと楽しい会話をしながら食べました。午後からは、学童保育に行き、10人前後の子どもたちと室内で遊んだり、外に出て遊ぶ日は鬼ごっこをしました。おやつ時間も皆と一緒に食べました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回の活動を通して、人と接することは簡単そうに見えて、とても大変なのだと思います。また、この体験は自分にもプラスになり進路選択の幅も広がりました。人の命をあずかる仕事なので、とても大変な仕事だなと思いました。今回の体験で、歌う、笑う、話す、思いやる、という4つの心が大切だと思います。

今回の体験で、どんなに小さなことでも、続けることが大事なのだと気づきました。お世話をすることは、簡単そうにみえますが、この8日間を体験して、とても大変なことなのだと感じました。ゲームをする時も、隣り同士で協力し合っていたので、協力することは生活していく中で、最も重要なことに気づけた気がします。今回のインターンシップで学んだことをしっかりと心に刻み今後の進路活動に活かしていきたいです。

村田 有香さん

本宮高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

高齢者の方と、朝の体操を一緒にしたり、歌を歌ったりしました。また、ちょっとした遊びをして、お昼の時は話をしながら食べました。子どもたちとは、いろいろな事をして遊んだり、勉強を教えたりしました。おやつの中には、子どもたちと一緒に話をしながら食べました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

私が普段できることが、高齢者にとって少し難しく感じることもあるので、心から寄り添って、手を取り合うことが大切だと思います。また、少しでも体を動かしたり、歌ったりすることが健康に繋がることを知りました。子どもたちとは、皆平等に接することが大事だと知りました。数人から声をかけられた時に、1人だけの話ではなく皆の話を聞くため一人ひとりが自分の話ができるように接しました。そのおかげで仲良くなれたと感じています。

今回の活動で、高齢者の方とどのように接する事が大切なのかということを学びました。これからも、高齢者の方と話す機会はあると思うので寄り添う気持ちを忘れずにしていきたいです。子どもたちに対しては、一人ひとりをしっかり見て平等に接することを学びました。嫌な思いをする子がいないようにこれからも気をつけていきたいです。また、進路を決める時、今回学んだことを思い出して自分にあった道を選んでいきます。

特定非営利活動法人
元気になろう福島

●受入れ団体・学生紹介

所在地 福島市荒町4-7 県庁南再エネビル2F

連絡先 024-563-7166

URL <http://genkifukushima.jp/>

主な活動 双葉郡・浜通りを中心に、地域の人々と連携して、震災後の地域が抱える様々な課題の解決に向けた取り組みを行っています。

受け入れ団体コメント

今回受け入れた2名の学生さんは、それぞれが福島の復興や将来に関心を抱いて主体的な行動を起こしているということもあり、学生としての視点、自身の活動からの視点など、団体が持っていない角度からの意見を多く聞くことができ大変有意義でした。

改めて様々な視点から視野を広く持って日々の活動に取り組むことの必要性を実感するとともに、若い世代の頑張りから良い刺激を貰ったインターンシップとなりました。



吉田 梨央さん

福島高等学校2年／二本松市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

元気になろう福島さんの事業内容と福島県の現状についての座学。役員への配布物事務。蓮笑庵への訪問。田村市中山地区の視察。大熊町等の浜通り地方のフィールドワーク。川内村の視察。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

何か新しい企画や事業をやる際、頭で考えるだけではなく、活動するフィールドに実際に足を運んで体感して深くその土地を理解することが大切なことだと学びました。一見、簡単に解決できそうに思える地域の課題は、その土地に入ってはじめて難しさを理解することができ、その難しさや葛藤の中で折り合いをつけながら解決していく過程が大切なのだと学びました。地域のより良い発展は、一步一步着実に歩むことが必要だと思いました。

私は将来、ふくしまの未来を作りふくしまのために働く人になりたいと考えていましたが、今回の活動を通して、よりいっそうその思いは強くなりました。インターンシップの中で、様々な課題を持った地域をフィールドワークすることが多く、その際自分の知らなかった地域の課題や特色を新たに発見することができ、自分にはまだまだ知るべきこと、学ぶべきことが山ほどあると再確認できました。これからも積極的に学び続け、ふくしまのことを考え続けたいと思います。

穴戸 孔哉さん

福島大学4年／福島市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップでは、主に2つの活動をしました。まず、話し合いです。福島県内各地に向かい、そこで復興への取り組みを行っている皆さんの話を聞きました。そして、事務作業です。書類の整理を行った他、NPOやNPO法人の現状について、メンターとの話を通して知りました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

活動を通して、学んだことや気づいたことは2つあります。1つ目は、現地に向かうことの大切さです。実際に行くことによって、現地の雰囲気を感じたり、地元の皆さんが大切にしているものを知ったりすることができました。2つ目は、実際に現地の方の話を聴くことの大切さです。実際に会って話さないと分からない、相手の方の素顔や、自身の取り組みに対する熱い思いを知ることができました。

学んだことや気づいたことを、次のような点で活かしていきたいと思っています。まず、自分の考え方についてです。自分のしていることについて、自信を持とうと思いました。次に、できるだけ現地に足を運ぼうと思いました。自分の持っているイメージだけではなく、現実をこの目で確かめようと思います。そして、多くの人と関わりたいと思いました。人と関わることによって、自分の意見も磨いていこうと思います。

特定非営利活動法人 ライフケア

所在地 福島市郷野目金込町8 菜たねの家の内

連絡先 080-5227-2110

URL <http://npo-lifecare.org/>

主な活動 災害の予防・支援・復興に関する事業を行い、人々が尊厳を持って安全に暮らせる地域社会づくりを目指しています。

受け入れ団体コメント

ライフケアの活動は被災者への手当てや健康相談、保養、歌声サロンなどです。果たして若い人に理解されるか心配しましたが、論より証拠でした。実際に手当てを体験してもらったら「気持ちいい」、「学校でもこういう授業があるといい」と言ってもらえ、歌声サロンでは楽しさが伝わったと感じました。



遠藤 廣人さん

本宮高等学校2年／本宮市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

NPO法人ライフケアさんの生い立ちを学ぶ。ライフケアさんの行うイベントの手伝い、及び参加。お子さんとの交流。快医学講座の実演。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

インターンシップでの主な活動は団体の方の手伝いや、施設の方々、子どもたちとの交流でした。活動全体を通して、常日頃からこれだけ多様なイベントや活動をライフケアさんが行っていることにとても驚きました。代表の方はこの団体を立ち上げる前から様々な活動を行っていたそうで「やれること全てやらなくてはならない」という感情があったと伺いました。その言葉を受け、改めてここで活動できて良かったと実感できました。

自分の学んだことを今後のインターンシップやボランティア活動での関わりや、自分の知識として今後の生活に役立てていきたいと考えました。ここで学んだことは、一緒に参加した友達と共有し合い、より理解の深いものとして、残していきたいと思います。

矢部 圭一さん

本宮高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

歌声サロンの手伝い、参加。子ども食堂の手伝い。子どもとの交流。快医学講座。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

様々なイベントや活動、手伝いを通して多くの人々とふれ合い、特に歌声サロンでの活動は人の優しさにふれました。主にイベントでは場を盛り上げることをしていましたが、イベント内でリクエストした曲を歌うなど、とても楽しませていただきました。様々な活動をしていたため、時間が足りず片付け中に電車の時間に間に合いませんでした。その際にスタッフの方にいただいた感謝の言葉に、とても感動したのを忘れられません。

人に優しくするとやはり自分に回りまわってくると実感しました。人助けの楽しさや充実感はかなりのものでした。今後はこのような活動や手伝いなどを積極的に行っていき、人々の優しさにふれられれば良いと思います。また、NPOの活動の内容も知ることができたので、将来このような活動にかかわることができたらうれしく思います。



所在地 福島市飯坂町字筑前7-1

連絡先 024-573-8203

URL <https://fufc.jp/>

主な活動 幼児や小学生向けスクールや、各種大会の開催を中心に、サッカーを通して青少年の健全育成および地域振興に貢献できるよう、活動しています。

受け入れ団体コメント

私共NPO法人福島ユナイテッドスポーツクラブは、Jリーグの福島ユナイテッドFCと連携して活動しています。その中で、子どもに対する事業のアイデア不足を感じていました。しかし今回、参加してくれた学生を指導する中で、固定概念にとらわれない考え方の重要性に再度気づくことができました。インターン生を受け入れたことで、得られた効果だと感じています。今後も彼らから学びを得られるよう、ぜひ参加したいと考えています。



鈴木 政徳さん

郡山健康科学専門学校3年／山形県米沢市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

スクール紹介ブースづくりや紹介ブースのスライドショーづくり、スクール活動、使用したビブスの洗濯や干し作業、大会・福島ユナイテッドのホーム戦の運営を行いました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

インターンシップ活動で行った、スクールでは子どもたちへの接し方が学年によって変えていく必要がありました。また、子どもたちがすることの先読みを行うのは良いことですが、先読みしてサポートをやりすぎるのは、あまりいいとは言えませんでした。物事に対する適度なサポートを心がけていくことが大切だと思いました。

成長するためには、一日やってきたことに対して常に今日はどこが良くてどこが悪かったのかを考えていくことが重要になっていきます。そのために日常的に自分が何をやるべきであるかを考えながら反省点を探して、改善していきたいと思っています。



特定非営利活動法人

いいざかサポーターズクラブ

所在地 福島市飯坂町字湯沢26番地

連絡先 024-529-6125

URL <https://iizakasupporters.com/>

主な活動 住んで歩いて楽しいまちを目指し、福島市飯坂町を盛り上げたいと考えている人たちが、集まる共通の場として活動中です。

受け入れ団体コメント

当団体は、福島市飯坂町にて街づくりを行っている中で、地域観光の盛り上がりや、将来地域を担っていく子どもたちの育成に関わっており、受入時期は、夏休みの子どもの外遊びや、カヤックツアーを開催しております。当団体の通常スタッフは、男性及び年齢が高いため、女子大学生に来ていただいて、子どもたちと一緒に遊んだり、カヤックツアーにおいても女性の視点が入ると、雰囲気も穏やかになる感じを感じることができました。



佐藤 杏美さん

福島大学3年／福島市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

カヤックツアー。児童との外遊び。災害公営住宅で健康サロン。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

インターンシップ活動の回を重ねるごとに、私の役割を見つけて行動する成長力を身に着けることができました。また、自然環境で遊ぶことの楽しさを改めて実感することができました。

イベントの企画や、運営側としてイベントに参加するときの心構えを学ぶことができたと思うので、今後の学生生活や就職をした際、自分のスキルアップとして今回の経験を役立てていきたいです。



所在地 郡山市池ノ台20-23

連絡先 024-983-7642

URL <https://www.npo-fuyodo2100.org/>

主な活動 障がい児通所支援事業の運営、児童・障がい児に対する相談支援業務、東日本大震災被災者への復興支援、地域コミュニティ創生事業「コミュニティmano a mano」の運営をしています。

受け入れ団体コメント

毎年、チャレンジインターンシップ事業に参加させていただいていますが、年を重ねるごとに、学生さんの目的意識(将来の職業を意識したり、今の自分に必要な経験である等)が明確になっていることに驚かされます。学生さんは子どもたちと真摯に向き合い、子どもたちにすぐ受容されます。私たちは普段の業務に追われがちですが、インターンシップ事業は支援者としての基本姿勢や原点を改めて認識する機会となっています。



渡部 桃子さん

太田看護専門学校1年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

基本的に午前は就学前の子ども、午後は中学・高校生と共に、成長や社会生活上での可能性を広げるための活動を経験させていただきました。午前中は主にことばや運動、学習、遊びのお手伝い、午後は日毎に異なる掃除や料理などのプログラムのお手伝いに、自分自身にできる範囲で参加することができました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

まず「障がい」と呼ばれる症状にも本当に多様性があるということです。一般的に障がいと認知されている症状もありますが、活動の中で「確かに少し違うかな」と感じる点が症状だということも何度かあり、本当に驚きました。そして、障がいを持つ方を理解し、支える大人の方が想像よりもたくさんいらっしゃることに気づき、心強い環境が整っていると感じました。一人ひとりを理解して、将来まで考慮する方が傍に居る環境の存在は貴重だと思います。

全く同じ人間は存在しないため、障がいはもちろん、人間としてのあり方の理解に、今回の活動を活かしていきたいと思っています。将来の目標である看護師という仕事にも、多く還元できる経験をさせていただいているので、子ども、そして職員の方からも関わり方やあり方を学び、そして活かしていきたいです。また、今回学ばせていただいた知識を周囲に伝えることも、理解を深める手段の一つになると思うので、積極的に発信していきたいです。

風間 明日香さん

本宮高等学校3年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

主に小学生の子どもたちと、お弁当作りやうどん作りをしました。また、集団行動の訓練として三春のコミュニティやビッグアイなどへ遠出をしました。他にも施設内でゲームなど充実した活動を行うことができました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

私は今までの人生の中で、障がいのある子どもたちと接する機会がなかったのですが、この活動でコミュニケーションの仕方だったり、上手く話すことができない子どもたちの気持ちをくみ取る方法を学ぶことができました。また、上手く相手に気持ちが伝えられない子ども、しぐさや表情で表現しようとしている姿があることに気づくことができました。

私は将来、教育関係の仕事に就きたいと考えています。そこでは、個性あふれる様々な子どもたちと関わることになるでしょう。

今回の経験をしっかりと活かして、さらに「気づき」ができるよう感受性を磨いていきたいです。

特定非営利活動法人
あんだんて

所在地 郡山市大槻町字天正坦28番地4

連絡先 024-905-1493

URL <https://andante-pokke.jimdo.com/>

主な活動 障がいを持つ子どもたちの社会参加や安心して楽しく過ごせる居場所・仲間作り、保護者支援を行っています。

受け入れ団体コメント

意欲的で向上心のある学生さんが多く、私たちが日々当たり前に行っている業務の中で初心を思い出させてくれ新鮮な風を運んでくれました。その中で「人に伝える」事の難しさを改めて感じ課題の一つになりました。普段は事業所内で限られた人との関わりしかないので学生さんに会えるのを楽しみにしている子どもたちが多く見られ楽しい活動ができました。私たちも学生さんを通して新たな視点から子どもたちを見ることができ大変勉強になり嬉しく思いました。

橋本 結衣さん

本宮高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

勉強中の見守りや工作、おやつ作りなどの活動の見守り支援等を行いました。各企業への見学や実習、カルチャーパーク、障がい者福祉センターでの夏祭りなどの外出支援では子どもたちの行動の後方支援や同時参加をすることで自分自身社会参加をしながら子どもたちの安全面や健康面での配慮、必要な準備や支援の重要さなどを学びました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

普段子どもと接する機会もないため、はじめは声のかけ方や会話の仕方などコミュニケーションの取り方が難しいと感じました。そして、障がいを持つ子どもとも接する機会がないため、どう声をかけたらいいのか関わり方について、戸惑い悩みましたが、先生方にアドバイスをいただきながら活動する中で、子どもたちは一人ひとり違う個性を持っていて素直で優しくとてもいい子たちばかりだと気づくことができました。その後は、気づいたことを頭に入れて行動することで、障がいという認識を持たず自然に子どもたちとコミュニケーションをとれることを学びました。

子どもたちの「できない」という言葉を受けてすぐに私自身が手を出してしまう事が多々ありました。でもそれが子どもたちのためには何ひとつならないことを学んだことは大きな収穫でした。子どもの言う「できない」を簡単に受け入れ、自分がやってしまうのではなく、自ら考え行動できるように支援することを心がけ、将来にも活かしていきたいです。

今泉 ほのかさん

須賀川桐陽高等学校2年／三春町出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

障がいを持つ子どもたちの勉強や遊びのサポート、さらに生活面でのサポートも主に行いました。また、おやつ作りの補助を行ったり夏祭りや公園へ行ったりする外出支援なども行いました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

活動に参加する前は障がいを持っている人に対して少し抵抗がありましたが、活動をしていくうちにその抵抗はなくなっていきました。また、障がいのある人とは壁があると思っていましたが、壁を作っていたのは私の方だと気づくことができました。その気づきのおかげで最初は積極的に話しかけることができなかった子にも活動の最終日になるにつれてたくさん話しかけることができるようになりました。

今回学んだことは様々な個性を持った子がいるので、その個性を尊重するべきだということです。障がいがあるからといって特別扱いするのではなく、個人個人に合った接し方を見つけていくことが大切だと感じました。また、将来取得したい資格も決めることができたので、この活動を通して学んだことを活かして目標に向かって努力していこうと思います。

山野内 彩夏さん

日本大学東北高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

支援事業所に通っている子どもたちの個別メニューや勉強を見守り、何か困っていることがあれば手助けや声かけをしました。危ないことをしている子、喧嘩になりそうな子には注意をしました。また、外出支援では子どもたちと一緒に公園で遊んだり、工場見学も行い、ライフフーズではパン作り体験もしました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

障がいを持っている子どもたちにこのように深く関わることは初めてで、毎日が驚きと発見の連続でした。普段関わっている子どもたちとは違い、私たちが想像もつかない行動をするため、その都度臨機応変に対応していく必要があるのだと改めて気づきました。また、一人ひとり集中できるものが違うため、全員で同じことをやってもらうことがどれほど大変かも学びました。

私は、将来接客業に就きたいと思っています。そのため、様々な方と関わりを持ち、様々な関わり方を学びたいと思ったので、今回の経験は本当に貴重なものとなりました。近年、社会ではバリアフリー化が進んでおり、これからの時代を生きていく私たちは障がいを持つ方と関わる機会が必ずどこかであると思います。その時、今回経験したことを踏まえながら障がいについて少しでも理解を深め、仕事に活かしていきたいと思っています。

緑川 琴音さん

日本大学東北高等学校2年／須賀川市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

障がいのある子どもたちを相手に、勉強、工作、運動などの活動、工場見学、おやつ作りなどの補助・支援をしました。勉強をしている際には悩んでいる子どもたちにヒントを出したり、工作をしている際には作り方を説明したりアドバイスをしたり、運動をする際にはサポートをしたりしました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今までは、障がいのある子どもたちに対して何でも手助けをするというイメージを持っていました。活動を通して、子どもたちが自ら目の前の物事について考え行動できるようにサポートする重要性和、各個人のペースに合わせて行動することでよりその機会を与えることを学びました。また、障がいは個性と何等変わりなく、子どもたち一人ひとりに目を向けられそれに合わせて関わるのが重要だと再認識することができました。

親戚にまだ小さな子が多く、普段から子どもと接する機会が多くあります。また、私は将来子どもに関わる仕事に就きたいと考えています。子どもたちと関わる際には障がいの有無に関わらず全て手伝うのではなく、それぞれのペースに合わせて子どもたちが自ら考え行動できるようサポートしていきたいと思っています。加えて、障がいがあるから、子どもだからという理由でなんでも決めつけずに、自主性を尊重していきたいと思っています。

矢内 日香莉さん

日本大学東北高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

職員の方がミーティングをしている間の児童の見守り。勉強中、手が止まっている児童への声掛け。個々の児童の工作や運動の援助。外出時の引率。おやつ作り。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

工作中、ある児童が何かをできず困っていました。私は、すぐ手伝おうとして児童に近づきましたが、職員の方に「最初は見守るだけで良い」という助言をいただきました。私は、今まで手を差し伸べることだけが優しさだと思っていましたが、この助言から児童自身で考えてやりとげることでできるようになることもあり、自信に繋がっていくことを知りました。時と場合によっては見守ることも重要な支援であるということに気がつくしました。

私は将来、心理学を学びたいと考えています。そのためにコミュニケーション力を高めたいと思い、この活動に参加しました。この活動を通して、障がいを持った児童や職員の方々などに関わりを持つことができ、そこから心理学において大事な、相手との会話において表面上だけでなく本当の気持ちを理解するということについて考えることができました。これから、多くの出会いを通してより一層人間性を高めていきたいと思っています。

子育て支援コミュニティプチママン

所在地 郡山市富田町字大徳南2-23

連絡先 024-983-1925

URL <http://petitmaman.or.jp/>

主な活動 郡山地域を中心に子育て支援をしている法人で、常設ひろばでの親子活動の他、出張での各種活動を行っています。

受け入れ団体コメント

学生さんから「子育て中のお母さんと関わりたい」という声を多く聞きました。子どもに関わる仕事を目指しており、小さなお子さんが集まる当団体を選んだのかと思っておりましたが、お母さん方はどんな風にどんな思いで日々子育てをしているかにも関心を持っていることを知りました。それは当団体にとってとても嬉しいことであり、我々も学生さん方が感じてくれた《お母さん同士が繋がる場》の大切さを再認識することができました。



車田 風薫さん

福島大学1年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

就学前のお子さんや赤ちゃん、そのお母さん方とのふれ合いを中心に、リトミックや英語でのふれ合いなど様々なイベントに参加しました。その他、昼食の準備・後片付けやイベント用おもちゃ作りなどの事務作業、発達に不安のある子どもを対象とした発達教室の補助などを行いました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回のこのプチママンでのインターンを通して、改めて“人”を相手にする仕事の難しさを実感しました。中でも子どもは、接する側の工夫と忍耐強さが大切になるため、いろいろな引き出しを持って臨機応変に対応しなければならないのだなと思いました。また、子どもと接する機会があっても、子どもと接するお母さんを見ることのできる機会はなかなかないことなので、とても貴重な体験をさせていただくことができました。

私は将来、小・中学校の教員を目指しています。そのため、子どもとの距離感の計り方やお母さん方との接し方は、自分が教員になった際にも活かしていきたいです。また、私自身も身近に小さな子がいるので、その子たちとふれ合うなかで今回の学びを活かしていくとともに、そのお母さんたちの不安や悩みなどにも耳を傾けながら、寄り添っていければ良いなと思います。

佐藤 小梅さん

本宮高等学校2年／二本松市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

各イベントの補助や昼食の準備、片付け、開園の準備、おもちゃの消毒、プールの片付けなどを行いました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

活動をする前は、大変な仕事だらけだと思っていたけれど、大変なことよりも楽しいことの方が多く、毎日楽しく活動することができました。初めは、自分から子どもに話しかけることがあまりできていなかったり、コミュニケーションのとり方が分からなかったりしたのですが、活動を重ねていくうちに自分から話しかけられるようになってきました。この活動を通してたくさんの事が学べました。貴重な体験ができてとても幸せでした。

託児で教えていただいた事やコミュニケーションのとり方など、たくさんの事を学びました。今回の体験は、将来の進学へつながる体験で、進路を決める大事な一歩になったと思います。学んだ事を自分のものにして、これからも、もっと多くの知識を取り入れていきたいです。そして将来の仕事にもつなげていこうと思います。

秋田 陽奈乃さん

日本大学東北高等学校1年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップでは、子どもたちとふれ合い・託児、流しそうめんなどのイベントのお手伝い、施設内の掃除、道具の点検etc…を行いました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回の活動を通して、普段係わりの少ない小さな子どもたちとふれ合う機会がたくさんありました。一緒に遊んだり、話しているうちに同じ年齢の子でも一人ひとりに個性があることに気づきました。また、本人がまだ言葉を話せていなくても私が話した言葉を理解してくれているような行動を見て、今まで私が考えていたよりも、私たちの事を理解してくれているということを学びました。

今回普段ふれ合わないような小さな子と関わることで、今まで気づけなかった小さな発見だったり、小さい子どもたちならではの視点だったりを実感することができました。私は将来、子ども関係の職に就くか今の段階ではわかりませんが、結婚して子どもが生まれた時に今回のインターンで学んだことを活かしていきたいと思っています。一人で抱え込まずみんなで子育てしていて、私自身とても楽しかったです。

小室 李佳さん

郡山健康科学専門学校3年／栃木県大田原市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップではその日ごとにある様々なイベントに参加し、お手伝いをしながらたくさんのお子さんや子育て中のお母さん方とふれ合うことができました。音楽に合わせて体を動かしたり、離乳食講座にも参加させていただき、とても貴重な体験となりました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

様々なイベントに参加させていただき、最初は緊張して子どもや保護者の方と積極的に関わることができませんでした。回数を重ねていくごとに積極的に関わることができるようになりました。子育て中の保護者の方やお子さんたくさん関わる機会はなかなかないので、お子さんとの関わり方や声のかけ方など、インターンシップ活動の中で見ていてとても勉強になりました。

今回のインターンシップでの経験を通して、もっともっと自分から動き、積極的にたくさんの方々とコミュニケーションがとっていけるように活かしていきたいと思いました。また、幅広い子どもたちと関わりながら、一人ひとりの子に心を開いてもらえるような関わり方ができるように意識していきたいです。今後もインターンシップやボランティア活動などにも参加して、自分からいろいろな方と関わる機会を増やしていこうと思います。

高橋 美邑さん

郡山女子大学短期大学部1年／山形県米沢市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

日替わりで行われるイベントの補助として、プチこくらぶやチャイルドヨガ&マッサージ、親子英語、発達教室等に参加して様々な年齢の子どもと遊んだり、託児を行いました。そして、リトミック・ベビーリトミックでは、手遊びやボールを使用したリズム遊びでの伴奏を行ったり、おもちゃの消毒やイベントに向けた製作活動をしました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

子育て支援とは具体的にどんな活動を行っているのかがあまり想像できませんでしたが、スタッフの多くが子育て経験者ということもあり母親の不安や悩みが少しでも軽減でき、子育てのしやすい居心地の良い環境を提供することが目的であるのかなと感じました。母親のケアだけでなく子どもの年齢に合わせたイベントの開催や発達教室等、子どもの成長に親身に寄り添ってくれる存在の大事さに気づきました。

年齢や性格、障がいの有無に関わらずたくさんのお子さんとふれ合うことができ、貴重な時間となりました。リトミックの活動で子どもたちと手遊びやピアノの伴奏を通して関わることがとても嬉しく、この経験をこれからの学びに活かしていき、音楽を通して子どもの能力を引き出しながら楽しく関わることを目指していきたいです。また、今後も子育て支援の活動へ積極的に参加したいなと思いました。

所在地 郡山市緑町7-9

連絡先 024-983-3977

URL <http://sin-zen-bi.or.jp/>

主な活動 世のため人のために尽くすことを第一義の目的として、障がい者と健常者が交じり合う「共に生きる社会」を実現するために活動しています。

受け入れ団体コメント

今回は、高校生の受け入れであったことから、障がい者と交わることに不慣れな面もありましたが、「カレッジ郡山」の利用者は主に青年期を迎えた人が多いことから、同じ世代の人たちと交わる機会が与えられ、お互いに良い刺激となりました。障がいを持つ者との共生社会を目指していく上では、若い世代の人が障がい者との交わる経験を積んでいく場の提供は、大変重要であると考えます。お互いに目的意識を自覚していくことが大切です。



佐藤 琴美さん

本宮高等学校2年／福島市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

カフェとカレッジ郡山という場所で、2つ体験させていただきました。カフェでは、お客様の接客が難しかったです。しかし、お客様が笑顔で食べていただくのがとても嬉しかったです。カレッジ郡山では、障がいのある学生さんたちと、生活的な授業を行い、今回は、調理実習を計画し料理を通して交流しました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回インターンシップに参加して、障がいのある人たちと交流をしました。障がいのある方のために仕事をするのは、大変だと思ったりして少し抵抗する気持ちもありました。しかし、今回の交流を通して気持ちが変わりました。学生さんたちはいつも笑顔で、優しい人であり、同じ人間だということに気づきました。

今後は、交流をするときには会話することが大切だと思うので、自分から話せるように積極的に会話していこうと思います。そして、内面が見えないのはあたりまえですが、外見だけで印象を簡単につけるのではなく、その人の良い所を見つけようと思いました。

志水 琴美さん

桜の聖母学院高等学校2年／本宮市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

技能大会の見学や調理実習、カラオケ大会など普段では経験する機会がない事を、カレッジ郡山を利用されている学生の皆さんと一緒に行いました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

活動を通して私は、特別支援教育は知れば知るほど奥が深いものであり、常に障がいを持っている人と共生するには？障がいを持っている方が暮らしやすい社会は？と考え続けていくことが大切なんだと感じました。また、今回学んだ「障がい者のために。ではなく、障がい者と一緒に。」という概念を心に留めて、この先自分が体験する活動そして成人したのちに企画するかもしれない活動など、これからの自分の活動に活かしていきたいです。

学習障がいやバリアフリー、障がいがあっても参加できない活動など世の中はまだ障がいを持った方にとって不利な問題が存在しているということを改めて感じると同時に、「もっと障がいを持った方々と関わり思い出をつくりたい！」という自分の気持ちを発見することができました。障がいについて知っていることはその目標を叶える第一歩であると思うので、この経験を忘れないで、目標に向かって活動していきたいと思います。

認定NPO法人
キャリア・デザイナーズ

●受入れ団体・学生紹介

所在地 郡山市昭和二丁目2番7号 さとうビル2F

連絡先 024-973-5667

URL <http://npocd.jp/>

主な活動 2008年より就労自立を目指す若者の支援活動を行っている認定NPO法人です。協力事業所でのジョブトレーニングや講座（PC、ビジネスマナー、コミュニケーションなど）を実施しています。

受け入れ団体コメント

「団体内に新鮮で柔軟な発想、そして、非日常性を取り入れ、更なる活性化を図りたい」という理由から応募いたしました。高校生2人のインターン生を受け入れ、当初の目的はほぼ達成できました。当法人では、ひきこもりやニートの方の社会参加・自立支援をしており、多くの利用者やボランティアの方が関わっています。インターン生の参加により、10代から80代まで、所属や世代を超えた多様な方が参加し、交流の機会ともなりました。



石田 彩菜さん

本宮高等学校2年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

インターンシップでは、利用者の方やボランティアの方、スタッフの方と一緒に内職のお手伝いやアパート清掃、ビジネス講座などを行いました。内職では、ネギのパックのシール貼りや、車に使うライトの部品の組み立てを行いました。ビジネス講座では、社会人に必要な言葉遣いなどを学びました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

私はインターンシップで、本当にたくさんのことを知ることができました。私は最初、NPOというのは皆さん真面目で、厳格な雰囲気のところかと思っていました。でも実際に活動してみると、皆さん気さくな方が多く、職場も仲良くわきあいあいとしていて、私が思っていたのとはいい意味で違っていました。また、活動を通じて、人とのコミュニケーションの大切さや仕事を行う上で大切なことをたくさん学ぶことができました。

今回、この活動で人とのコミュニケーションの大切さや、仕事をする上で大切なことなどを学ぶことができました。私は人とコミュニケーションを取るのが苦手な部分があるので、今回学んだ人とのコミュニケーションの取り方などを、これからの生活の中で活かしていきたいです。また、これから就職し、仕事をするようになるので、今回学んだ仕事をする上で大切なことを活かして、社会人としてしっかりできるようにしたいです。

武田 萌伽さん

本宮高等学校2年／本宮市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

利用者の方々やボランティアの方々との内職のお手伝い（部品の組み立て、パックのシール貼り）。アパートや民間のお掃除のお手伝い。エクセルやコミュニケーションの講座（ビジネス講座）。利用者の方々とのゲーム遊び。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回、キャリア・デザイナーズでインターンシップをしてみて、NPO法人についての見方が変わりました。前まではNPO法人はとても堅い雰囲気があると思っていたのですが、インターンシップを行ってみてとても明るく和気あいあいとした雰囲気を感じました。また、ビジネス講座や内職を行ってみて、仕事をする上で人との関わりがいかに大切かということが学べました。

今回のインターンシップで学んだ仕事の大切さ、またコミュニケーション能力の必要性などは、今後の学校生活やバイトまた将来大学にいったときや仕事をしたときに、活かしていきたいです。その為に、初めて会った方にも物怖じせずしっかりとあいさつをする、また、自分がもらった仕事は最後まで一生懸命責任をもって行う、など徹底していきたいです。

特定非営利活動法人
ぴいかあぶう

所在地 郡山市静西一丁目226番地

連絡先 024-926-0503

URL <http://peekaboo373.com/>

主な活動 障がいの有無に関わらず、子どもの社会参加や居場所づくり、子どもも大人も安心して暮らせる街づくりを目指しています。

受け入れ団体コメント

マッチング会からたくさんの学生さんたちの希望があったことを知り、私たちの普段の活動が、事前にしっかり発信（インターネット等）できていたのではないかと感じることができました。ただ単に忙しい夏休みの人手としてではなく、私たち自身の振り返りにもなり、子どもたちに対する関わり方において、気づきの多いプログラムとなりました。

今後も活気ある若い力をお借りして、地域課題の解決に取り組んでいきたいと思います。



鈴木 璃七さん

郡山女子大学短期大学部1年／昭和村出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

屋外で流しそうめん、コーチを招いて体育館でマットや鉄棒、体操、サッカー、室内でおもちゃを使って子どもたちと遊びました。おあつまりの時間に絵本を読み聞かせしたり、絵を使って歌も披露しました。1対1で対面学習をしたり、事前準備も一緒に取り組みました。おもちゃや課題の入れ替えもしました。



Q2. どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

活動には目的があり、様々な課題や特徴にそったスケジュールが組まれていました。次の活動に誘導する時など言葉だけでなく、絵や実物で明確にしたり、身体介入によりスムーズに動けるようにしていました。対面学習の時は始めにきっかけをつくり、その後の活動を見守るという段階によって自立する役割がありました。子どもがしてほしいことを自分で伝えられるように促すことで社会性を身につけたり、感情表現を自分でできるようにしていました。

今回のインターンシップで様々な活動を通して、子どもたち一人ひとりの場面によって異なる特性を観察し関わってきました。実習でも全体を見つつ、発した言葉の背景、意味を理解し、何がしたかったのかを考え行動できるようにしていきたいと思いました。自閉症と思われる子がいたら、視覚的に分かりやすい方法で説明や誘導するなど学んだことを実践していきたいです。おあつまりや遊びの中で得意なこと苦手なことなど、把握したうえで接するようにしたいと思いました。

鈴木 萌々香さん

郡山女子大学短期大学部1年／福島市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちと対面学習や遊びをしました。また、サッカー教室や体操教室にも参加させていただきました。子どもたちと関わっていく上で、先生方にお話を聞いたり、一緒に課題を考えたりしました。子どもたちの様子だけでなく先生方の動きも近くで見ることができ、とても有意義な活動でした。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

何も分からないまま参加させていただいて、初めは少し怖いと思いました。私の気持ちが上手く伝わらないのではないかなと思っていましたが、絵を見せたり、実物を見せたりすると子どもたちは分かってくれるのだなと感じました。できないと決めつけるのではなく、どうしたらできるようになるのか、そこを考えていくのが保育者のできることなのだと学ぶことができました。一人ひとりにきちんと向き合っていくことが大切だと感じます。

将来は、保育所で働くことしか考えていなかったけれど、こういう働き方もあるのだなと知りました。学校では知識をしっかりつけて、今回、経験させていただいたことを、保育者になった時に活かしていきたいと思います。10秒数えて落ち着かせたり、スケジュールを絵で伝えたりと、保育の場で使えることをたくさん見せてもらったので、実際に子どもたちにやっていきたいと思います。

人見 綾音さん

あさか開成高等学校1年／郡山市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

日々の子どもの課題のお手伝い。サッカースクール・体験教室の補助。外出時の子どものサポート。時間がある時の子どもたちとのふれ合い。遠足の時の補助。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

この活動を通して事業所が子どもたちの成長のためにしてくださっている工夫がたくさんあり驚きました。私が小学生の頃は近くにこんなにも地域の子どものために密接に関わってくれる所がなかったため、事務所に来ている子どもたちがうらやましく感じました。また私たちよりも子どもたち一人ひとりの成長はとても早く、1日子どもたちを観察していると1日の最後には見違えるほどになっている子もいて驚くことが本当にたくさんありました。

私は将来、医療系の職業に就きたいと考えているため、今回事業所の方々が子どもたちのためにしてくださっていた工夫や子どもたちの考えや発想力は活かしていきたいと思いました。また、日々の事業所での活動でたくさんのことを子どもたちから学べ、今の自分には何が足りないのかも明確に気づくことができたインターンシップでした。普段の学校生活でも、今回、学んだことや気づいたことを活かしていきたいと思います。

木村 直樹さん

本宮高等学校2年／大玉村出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちと一緒に活動をしました。一緒に遊んだり、お話をしたりしました。また、「ぴいかあぶう」では、サッカースクールや体操教室があるので一緒にやったり補助をしたりもしました。他には、畑に行き活動することもあり、活動を通して子どもたちとの関わりがたくさんありました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

障がいを持つ子どももいると聞いたときに、自分が持っている障がい者のイメージを思い浮かべてみると「周りとの協調性がない」、「コミュニケーションをうまくできない」などと思っていました。子どもの預かり施設である「ぴいかあぶう」で活動してみて、障がいの有無など関係ないと感じ、本当に障がいを持っているのか分からない子もいました。たとえ障がいがあったとしても、他の子どもたちと変わらないと気づきました。

7日間の「ぴいかあぶう」での活動では、はじめの方は緊張してしまい、うまく子どもたちと話したりすることができずにいましたが、周りのスタッフの人たちに子どもとの関わり方について教えてもらい、それによって後半はうまく活動することができました。そして、自分の持つ障がい者の見方が変わり障がいを持ってても周りの子どもたちと同じように行動することができると気づけました。これからの自分の夢や生活の中で役立てていきたいです。

特定非営利活動法人
市民活動支援組織NIVO

所在地 河沼郡会津坂下町字市中二番甲3650番地

連絡先 0242-84-2135

URL <http://nivo.jp/>

主な活動 住民主体のまちづくりをめざし、各種事業を展開する他、公益活動団体を支援・繋ぐ中間支援団体です。

受け入れ団体コメント

「会津坂下町がよりよい町になるためには」をテーマに聞き取りとアンケートを実施していただきました。当法人が活動で掲げているテーマではあるものの、若者の視点や切り口での質問とやり取りは、新鮮さ満載で活動のマンネリ感を打ち破り、澱んだ視点が洗い流されたような感覚でした。学生を受け入れるということは、役職員をはじめ会員等が、客観的な視線を持ち続け、活動を展開していくためにも有効且つ有意義な取り組みであると考えます。



佐藤 佳奈さん

大妻女子大学3年／会津坂下町出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

会津坂下町のNPO法人NIVOにて「会津坂下町がよりよい町になるには」という大きなテーマを上げ、8月20日から8月30日の9日間活動を行いました。地域コミュニティセンター等で活動している方や、町役場で働く職員の方へのインタビュー、坂下町民の方々へのアンケート調査を行いました。

Q2. どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

自分の地元を想う熱い気持ちや、次世代の子どもや若者が生きやすい何かを残してあげたいと思う地域の方がたくさんいることに気づけました。よりよい町になるためのまちづくりである前に、小さな町だからこそこのひとづくり、コミュニティづくりをする姿勢が大切だと思いました。

私は今地元を離れ、東京で大学生活をしています。18年間過ごしてきた場所を離れているからこそ感じる坂下町の良さや、課題に気づくことができました。離れていても、様々なかたちで坂下町の活力になるように携わっていきたいです。



所在地 南相馬市原町区深野字台畑15-2

連絡先 090-8258-0840

URL <http://npoharamachiclub.jp/>

主な活動 スポーツ・文化の振興、青少年の健全育成、笑顔・夢・感動あふれる元気なまちづくりを目指しています。

受け入れ団体コメント

今や若者との付き合いは大変難しいと思うことが多いのです。私たちが当たり前な行動言動思考などが通用しないことがあるからです。見て見ぬ振りはやめて、範を垂れることこそ大人であり、その生き様が次代に繋ぐことだと思うのです。

今回のインターンを受け入れたことはたった1人しかいない希少な高校生だったかもしれませんが、本気で向き合うことができました。彼女を通して、若者のイメージが変わったことが最大の収穫でした！



田中 暖々さん

相馬高等学校1年／南相馬市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

おもてなしの基本である掃除、お茶出し。野馬追でのおもてなしボランティア。ウォーキングサッカー。ポッチャ。地域医療に関する会議見学・参加。理事長に提案。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

より地元のことを深く知るため参加したインターンシップでしたが、予想以上に多くの初めてにふれることができました。その中で、どの体験にも共通しているところがありました。それは「市民のための第3の居場所づくり」ということです。私の活動期間中、常にまちの人の笑顔がありました。はらまちクラブに立ち寄るまちの人々を見て、ここがさらにまちの人々にとって心地良い場所となるよう、私も協力したいと思いました。

おもてなしの基礎を学んだので、日常生活から活かしたいと思います。また、掃除やお茶出しの基礎から野馬追でのボランティアなどのおもてなしを経験できたので、この心を忘れずに人に接していきたいです。そして、マクロ思考、ミクロ行動を大切に過ごし、めぐりあいを大事にしていきたいと感じました。はらまちクラブがますます広がるように、たくさんの人々に活動について教えていきたいです。



働くママを輝かせるプロジェクト

所在地 南相馬市小高区大富字仲島121番地の2

連絡先 090-4317-6182

URL <https://ratel.storeinfo.jp/posts/6842505>

主な活動 子どもがいても楽しく安心して働ける環境づくり、子育て世代の新たなコミュニティ作りを目指しています。

受け入れ団体コメント

大原さんも私も最初は緊張していました。受け入れをして感じた事は学生さんの視点でした。大原さんは南相馬市出身でしたので近い目線で見ていただいたと感じました。団体リーフレットのデザイン変更をお願いしたところ頑張って作っていただき、可愛く、見やすくなりました。若い力が近くにあるって素晴らしい！私も頑張ろう！という気持ちになりました。

大原さんに今の南相馬、私たちの団体を知っていただき感謝しています。



大原 夕夏さん

新潟大学2年／南相馬市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

団体のホームページ制作。団体のパンフレット制作。コットンパールの材料となる綿花の畑見学。コットンパールを作るための綿花をきれいにする作業。小学校での「放課後体験教室」への参加と運営の手伝い。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

まず、自分のことがよく分かりました。得意だ、できる、と思っていたことが実は苦手でできなかったり、全く興味が無かったものが輝いて見えたりと、自分の世界が広がりました。また、高校生まで住んできた町が大人の目線、即ち働きかける側の目線になるところも見え方が変わるのか、という気づきもありました。

現在私は大学生で、卒業まで時間もあります。今回のインターンシップだけで福島とのつながり、福島を学ぶこと辞めず、もっとインターンシップ等に参加しようと思っています。その際に今回の学びを活かせると考えています。また、大学の友達に情報発信をして福島を考える機会を増やそうともしています。今回のインターンシップで得た知識は学生にとっては新鮮なものばかりでしたので、学びの土台にしたいです。



所在地 いわき市平字尼子町2番地の7

連絡先 0246-23-5490

URL <https://globalmissionjapan.com/>

主な活動 バラエティーに富んだプログラムを通じて、国際性豊かに心の復興活動を行っています。

受け入れ団体コメント

インターン生という立場の違う人材が加わることで、新たな気づきを得ることができました。受け入れるために職場環境や安全管理体制を再点検する機会となり、その後にも応用することができました。また机を並べた職員は、異なる視点を活かして仕事を見直したり、指導することによりモチベーションや管理能力を向上させることができました。

このような事業は福島の復興・創生に大いに意義あるものと思います。



新妻 泉佳さん

磐城高等学校1年／いわき市出身



Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

試料の作成(芋掘り、カット)→“たらちね”に持ち込み、放射線量の測定、ラボの見学。その後、アメリカ人ボランティアグループとホールボディーカウンタによる内部被ばく検査。なみえ交流館にて太極拳教室への参加、避難してきた方々との交流。東京電力資料館での学習。

Q2. どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

アメリカから来たボランティアグループと意見交換をしていく中で、福島に対するイメージや復興への考え方の違いなどを実感することができ、震災への見方・感じ方が少し変わりました。また、代表の方の「役所ができない小さなことをコツコツ続けていくことが復興への第一歩だ」という言葉の大切さに改めて気づくことができたとても有意義な活動になりました。

たくさんの人の支えがあるからこそ、このような活動ができ、自分たちの「今」があるのだということを心にとめ、これからも小さなこと一つひとつを大事に、もっと多くの人と交流を深めながら少しずつ、福島から「心の復興」に携わっていけたらいいなと思います。



特定非営利活動法人
中之作プロジェクト

所在地 いわき市中之作字川岸10

連絡先 0246-55-8177

URL <http://nakanosaku.xsrv.jp/>

主な活動 津波被災から再生した古民家「清航館」を中心に、中之作のコミュニティづくりや、風景保存、空き家問題などに取り組んでいます。

受け入れ団体コメント

インターンシップ事業は当団体としては初めての試みでした。主にDIY教室参加、月見亭カフェのお手伝いを通して地域の人との交流、港町の散策を体験、ブログにて地域の魅力発信をしてもらいました。そこから、見えていなかった地域の魅力を再発見することができたと思います。インターン事業を通してもう少し深く地域と関わってもらい体制を整えていればと感じました。今後のNPOのあり方を考えるきっかけになりました。



安藤 玲香さん

磐城緑蔭高等学校2年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

DIYの手伝い。古民家カフェの手伝い。チラシ配り。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

町のコミュニティづくりの大切さを学びました。DIYやカフェを行ったり、作ったりすることで地域の人々を集めることができ、そのおかげで地域がにぎやかになり、活性化されていくのを見てそのように感じました。町づくりの大きな目標が地域の原動力になっていき、そこで地域の人々が結束し、力を合わせるということが重要だと気づくことができました。

地域のことにに関して、携わることがあったときには、気づいたことを活かして、地域間で人と人がつながれるような環境をつくりあげてを最優先に考えていきたいと思いました。また、具体的に大きな目標に向かって、進んでいくときは学んだことを活かし、リーダーシップがとれるようにになりたいと思いました。



新妻 彩羽さん

磐城緑蔭高等学校2年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

大きく分けて、まちめぐり、DIY、カフェの接客、仕込み、買い出し、荷物の運び出し、看板付けです。DIYでは、インパクトドライバーという機械を使って釘を打ったり、板に穴を開けました。それを使って小屋の外壁の板張りや、中の棚を作りました。また、月見亭の看板も作りました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

私は中之作プロジェクトの方の話を聞いた時、すごいと思いました。それは事業の目的です。簡潔にまとめると東日本大震災で被害にあった家屋を自分たちで直していくというものです。また、近年増え、問題となっている空き家も減らしたいとのことでした。話を聞いて、社会に貢献できるこんな方法があるのかと衝撃でした。また、自分たちで何かを成し遂げたときの達成感、満足感がたまらなかったです。

私は今回このインターンシップで得られたたくさんの経験を地域の復興、また、地元の福島はもちろんのことこの地域だけでなく日本全国、グローバルに世界で活かせるようにしたいです。そして、今回得られた経験から様々な考えを持ち、そのまま満足するのではなく、上へ上へと、さらに新しく斬新な考えを持ちたいです。そして、次の日本を背負うものとしての意識を持ち、私たちの次の世代へもつないでいきたいです。



小野 叶夢さん

仙台高等専門学校名取キャンパス1年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

農具小屋の扉、棚の作成。看板の作成。木材の塗装。パレットの作成。本棚の作成。カフェのお手伝い。まちあるき。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

まちあるきをした際に、中之作の歴史や文化にふれることができました。また、今まで接客のお仕事をしたことがなかったので、カフェを運営していく大変さを学びました。そして、一緒に活動していた一つ上の先輩2人とも協力して活動することができたり、楽しく会話を交わすことができたりしたので、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

今回、中之作の歴史にふれることができたことにより、自分の住む地域の歴史や、環境の変化にとっても興味がわいたので、身近な人に聞いたり、本やインターネットを利用したりして、調べてみようと思います。また、現在私が学んでいることを利用して、改めて地域の復興に向けた取り組みに今後も参加していこうと思います。



所在地 いわき市平下神谷字立田第5

連絡先 0246-34-4555

URL <https://seiyoudouikuseikurabu.web.fc2.com/>

主な活動 発達障がい・学習障がいの者の自立支援をメインに活動しています。

受け入れ団体コメント

今回は3名の学生を受け入れて、私たちスタッフと一緒に夏休み中の子どもたちの支援活動をしていただきました。常に子どもたちに寄り添い、子どもたちの話を聞き、子どもたちの笑顔を引き出してくれる姿をみて、日頃の活動を振り返る時間ができました。私たちスタッフも、毎日この笑顔が見られるよう、子どもたちと笑顔で過ごしていければと思います。



穴倉 寅泰さん

磐城高等芸術商科総合学園専門課程3年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

本棚の整理をしたり、下駄箱の掃除、玄関の掃除をしたりしました。子どもたちと一緒に遊びました。おやつの時の手伝いもしました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

子どもたちと過ごすことが、楽しいということに気がつきました。本棚の整理をしたり、おやつの食器を洗ったりする仕事など、どの仕事においても時間を守り、集中してやるのが大切だということを学びました。

今回のインターンシップで学んだことや、気づいたことを将来の進路に役立てたいと思います。僕は将来、どの仕事に就いても、集中して時間通りに仕事をこなすよう頑張りたいです。



岡田 悟さん

磐城高等芸術商科総合学園3年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

学童保育の子どもたちと一緒に、折り紙でいろいろなものを作って遊んだり、宿題の分からない問題を教えてあげたりしました。おやつの中には、おにぎりを作ってあげたりしました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

インターンシップを体験して、子どもたちとふれ合ってみて保育する大変さと、楽しさを学びました。人には分からない所を教えることによって、自分も勉強になることに気づきました。

今回の経験を活かして、困っている人がいたら声をかけて、少しでも困っている人の役に立てればいいなと思います。



加藤 広隆さん

磐城高等芸術商科総合学園3年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちと、トランプなどをして遊びました。子どもたちが使う鉛筆や消しゴムなどの整理整頓、本棚の本の整理整頓をしました。

Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

今回、子どもたちとふれ合う楽しさを学びました。インターンシップで学んだことを、将来の進路に役立てたいと思います。



特定非営利活動法人
いわき緊急サポートセンター

所在地 いわき市小名浜大原字丁新地206-2 支援拠点アステール

連絡先 080-6055-1099

URL <https://iwakikinsapo.jimdo.com/>

主な活動 子育ての不安や困りごとを共有し、家族丸ごとサポートします。就学前の親子が中心の多世代交流広場「すくのび広場」も運営しています。

受け入れ団体コメント

今回は、高校生2名、大学生2名のインターン生を受け入れさせていただきました。高校生の若さが溢れる笑顔にスタッフ一同、元気をもらいました。明るく楽しい雰囲気と輝く笑顔にふれ、「すくのび広場」の運営継続に意欲が出ました。大学生は、イベント開催の受付と対応等とても頼りになりました。吸収が早く抵抗なく実践し習得していくので、その成長ぶりにインターンシップの醍醐味を感じ、地域の未来が楽しみにになりました。



蛭田 麻奈美 さん

東日本国際大学1年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

広場を利用する方の受付をし、広場の仕組みやルールを説明しました。子どもたちと工作やイベントを通し、関わりを持ち、一緒に考えたり、作ったりして遊びました。広場を快く利用していただくために朝と帰りに掃除をしっかりとしました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

子どもたちやお母さんたちの居心地の良い空間を作るのはとても大変だと思いました。また、スタッフの皆さんの努力があつてこそだとも思いました。笑顔での対応や掃除など全てが大切だと思いました。子どもたちは創造力や発想力が豊かで、関わっていくうちに自分自身の心も豊かになる感覚がありました。子どもたちは一人ひとり考え方や感じ方が違うので対応力のスキルも大切だと思いました。

私は将来、児童福祉の道に進みたい、今の大学に進学しました。しかし行動に移すことがなかなかできず、自分の殻にこもってしまっていました。今回のインターンシップで挑戦することの大切さと行動に移すことの勇気を学びました。今後は少しずつでも自分が興味を持ったことに挑戦してみようと思いました。また、子どもたちの関わりの中で身につけた力を活かして自分でイベントを考えてみたいと思います。

野田 一成さん

東日本国際大学1年／茨城県北茨城市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

すくのび広場の大清掃で、大型遊具の部品点検や撤去、再設置を手伝いました。屋内の広い遊び場をNPOの手作りで設置していること、どのように運営しているかを知り、初めての利用者に案内しました。また、小さい子どもと遊んだり仕事を教えたりしました。他にも受付や保護者と話をするなど、今まで自分がしたことがない体験をいろいろさせていただきました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

相手の立場をちゃんと考えて、話し方や接し方を工夫することが必要だと知ることができました。子どもたちは一人ひとり性格が大きく違うので、一人ひとり違う接し方を学びました。また、お年寄りや幼児と話す場合は、目線を一緒にして話すことが大事だということなど、社会で覚えていく重要なものの一つを経験しました。インターンシップを重ねて場に慣れることができ、自分のパフォーマンスの幅も広がって、よりよい活動ができました。

今後は、学校などのグループワークの際に相手に合わせて話を進めたり、自分の考えをどうやって相手に伝えるかの場面などで活かしていこうと思いました。

鈴谷 知花子さん

磐城高等学校1年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

すくのび広場ではおもちゃの消毒や整頓、受付や事務処理をしました。また、子どもとふれ合ったり保護者とお話ししました。いわき緊急サポートセンターの病児保育では、障がいを持つ子どもと関わったり、日報をパソコンでタイピングしました。勿来公民館で開催した一日だけのサマースクールでは、小学生と一緒に工作や体験の感想文の発表をしました。



Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

子どもはとても多様多感でふれ合うのは難しいと思いましたが、それでも楽しかったです。一人ひとりの個性に合わせた対応が大切で、気分によっても対応が異なり慣れていないと難しかったです。逆に子どもたちの私に対する反応も多様であり、面白いと思いました。障がいを持つ子どもとの関わりでは、尊重することで生まれる信頼感が大切だということが分かり、難しさ以上に子どもの良さも感じられました。

子どもはあらゆる面で素直なため、多様さが実感できました。保護者も子どもの環境も多様であることを頭において、人と関わっていききたいです。尊重が信頼を生むことなど、全てにおいて同じだと思うので今後は意識したいと思いました。これから子どもと関わる時は、インターンシップで経験したことを活かして、一人ひとりに丁寧に向き合い、子どもの思いや考えを尊重したいと思います。障がいについて、まだ知らないことばかりですが、自分の対応が子どもに受け入れてもらえたことを励みに、もっと学び、知りたいと思いました。

吉田 菜月さん

磐城高等学校1年／いわき市出身



Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

受付や閉館後の片付けなどの基本的な業務だけでなく、七夕飾りを一緒に作ったり遊んだりして交流を深めました。また、たくさん子どもたちがふれるので、広場の掃除とおもちゃの消毒は特に力を入れて取り組みました。工作では一緒に楽しく作れるように、自分も楽しみながら教えました。

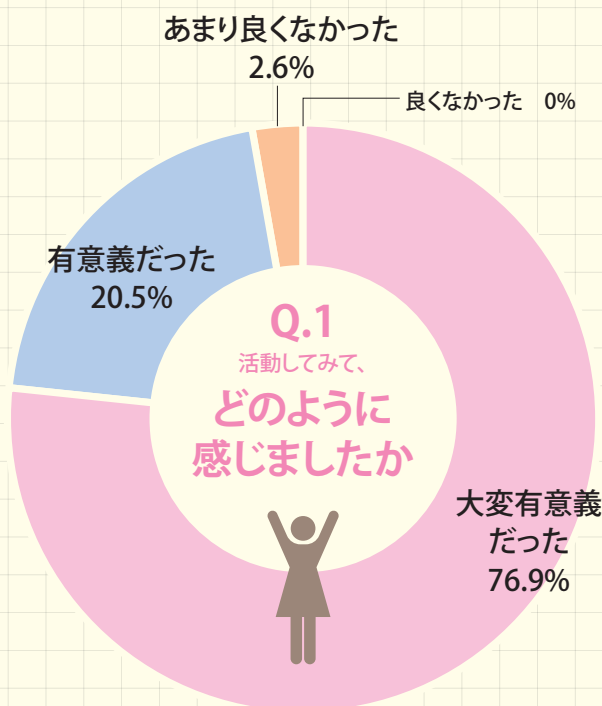


Q2.どのような学びや気づきがあり、それを今後どのように活かしていきますか

気づいたことは2つあります。1つは、子どもたちは周りの人に支えられて大切に育てられているということです。そしてだからこそ私たちは親に感謝することを忘れないようにすべきだと思いました。2つめは、仕事には責任が伴うということです。“すくのび広場”でボランティアをしてみて、この環境は広場の運営に関わっている人々の責任ある仕事の上に成り立っていると感じました。私も有言実行を心がけていきたいと感じました。

今回の体験でたくさん子どもたちと関わり、どれだけ大切に成長が見守られているのかを知ることができました。私もきっと大切に育てられてきたということが分かったので、これからは自分の健康に気を付けて、周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。また、仕事には責任が伴うということも学んだので、自分の行動や発言に責任を持てるようにし、社会で活躍できる人材になれるよう、努力したいと思います。

令和元年度「チャレンジインターンシップ」 インターン生アンケート



自分の地元について関心を持つ機会になりました。

自分たちの暮らす町に対し、力になりたいという強い思いや愛を持った人がたくさんいることを知ることができてとても良かったです。

NPO法人がどのようにして社会を支えているのか身をもって実感できました。

受入団体の方からいろいろな話を聞いたり、様々な活動を通して考え方や価値観が大きく変わりました。

普段は経験できないNPOの活動について知ることができました。

改めて自分の将来を考える機会となり、将来どんな職業に就きたいか明確な目標ができました。

今回関わったことがないジャンルの活動に参加して、知識などを学ぶとともに、少しでも自分が手助けになればと思いました。

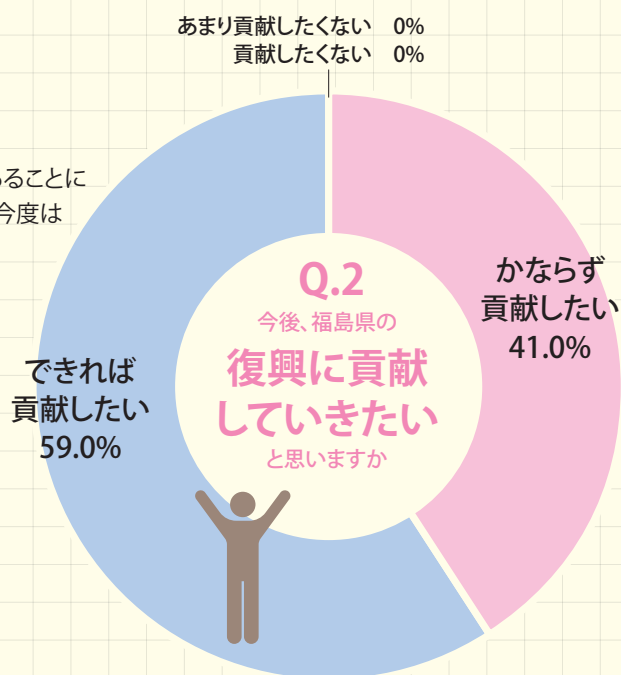
震災からこんなに年数がたってもまだ不足や不便があることに驚きました。当時いろいろな人にお世話になったので今度は自身が貢献したいです。

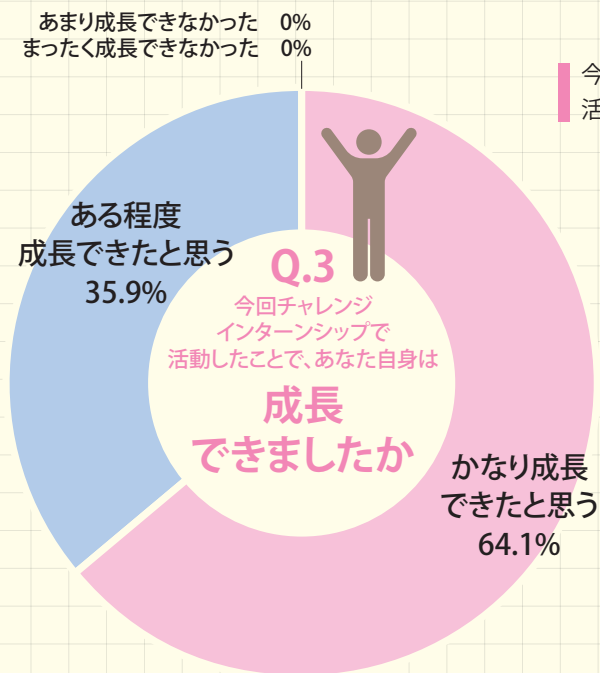
今回の経験を活かして、復興に貢献できるような事業やボランティアに参加したいと思いました。学生だからこそできることを大切にしたいです。

今回の活動にとってもやりがいを感じ、もっと復興の役に立ちたいと思いました。

活動してみて、私も人のため、生まれた福島のために何かしてみたいと思いました。

福島のことを好きになったので、県外出身の私にもできることがあれば貢献していきたいです。





自分から積極的に行動できるようになった
という点で成長できました。

今まで人とコミュニケーションを取ることが苦手でしたが、
活動を通して恐れずに話しかけることができました。

今まで関わりを持つことのなかった人たちと
接したことで、別の視点を持って考える、
ということを学ぶことができました。

自分なりに障がいについて
学ぶきっかけになりました。

福島の復興について改めて考えるよい機会になり、
一回り自分が大きくなったと感じました。

子どもとの関わり方だけでなく、
そのお母さんたちに寄り添うことの
大切さを学ぶことができました。

働くことの大変さを
しっかり感じることができました。

NPO法人での活動を通して、
今まで好きだった福島がもっと好きになりました。

今回お世話になった方々や、地元の方々の温かさを
身近に感じることができ、より福島県が好きになりました。

ひたむきに前を向いて仕事をする姿(人)を
目にすることができました。

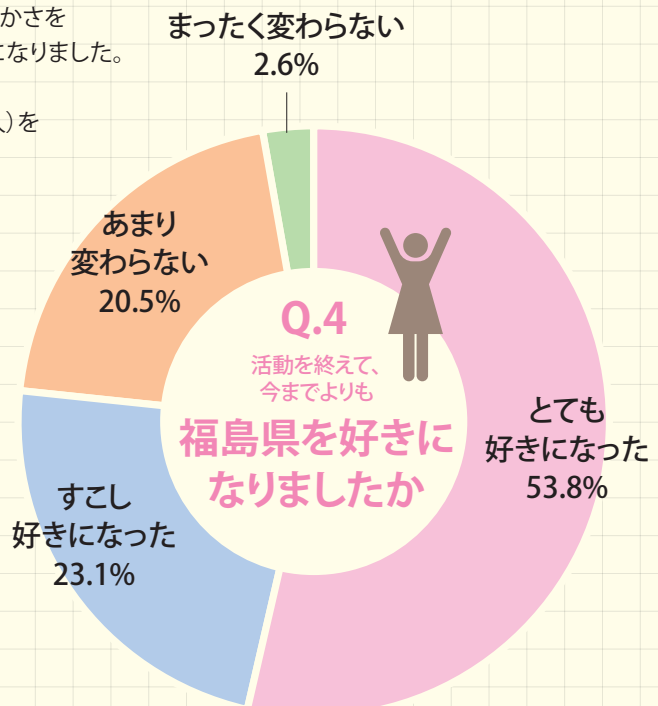
今回お世話になった団体の子どもに対しての
熱量や愛情が感じられ、とても素敵な空間を
作る大人の方がいることを知りました。

活動を通して、子どもに
やさしい福島を感じられました。

福島でチャレンジする人の多さに気づきました。

福島の人々は、本当に温かい人が多くて好きです。

NPO団体の方々からいろいろな話を聞くことができ、
どの団体さんも工夫している部分があったので、
そういう優しい人々ばかりで良かったと感じました。



令和元年度「チャレンジインターンシップ」 受入れ団体 アンケート

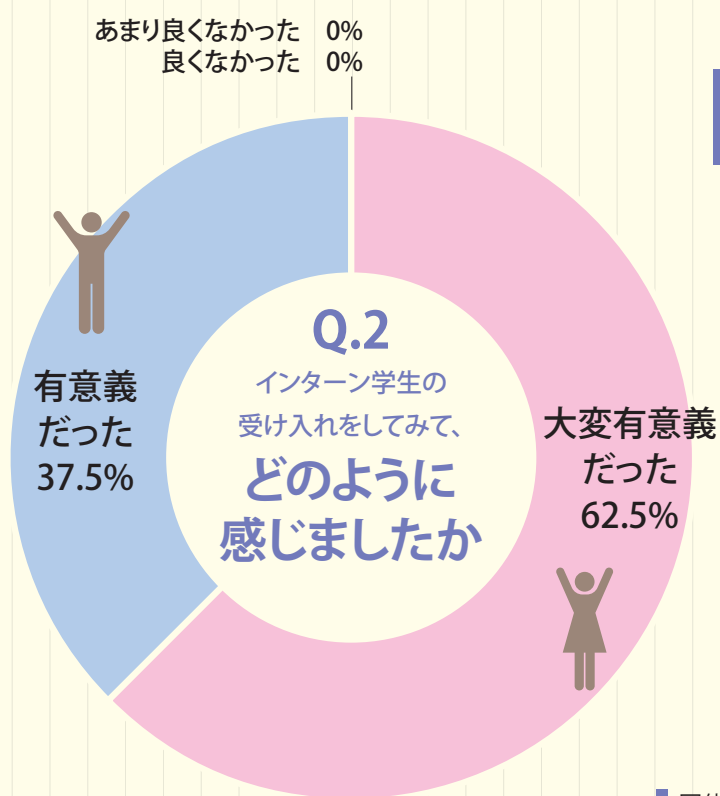
Q.1 応募を決めた1番の理由はなんですか

障がいのある子どもたちと実際にふれ合うことで、世の中での福祉の必要性、この仕事のやりがいを知ってほしかったからです。

若者の純粋でまっすぐな考えや感じたものは、ありのままの姿であり課題なども確認できると思ったからです。

学生の意見などを聞き、法人の活動を見直す良い機会だと思っています。

若者の育成を通して、福島復興の一端に寄与したいからです。



普段の作業の中でも、学生さんだからこそ気づく視点があり、話をしていると新しい発見ができました。

団体にとってもフレッシュな考えにふれ、刺激を受ける機会となりました。

インターン学生が来てくれたことで、事務所内もとても明るくなり、活動に取り組む姿勢や柔軟な発想から学びと気づきをいただきました。

主体的に福島を知ろう、福島の為になることをしようと活動している学生の存在を知ることができ励みになりました。

若者が力を発揮できる場・環境づくりの必要性を感じました。

団体内に緊張感が生まれてよかったです。

活動を通し、お母さん方が感じる育児の大変さ・楽しさを知っていただけて良かったと思います。

組織以外の人間を受け入れ指導するにあたり、組織を見直したり、同行、助言等々行うための準備をしたりと、自分の勉強にもつながりました。

学生の変化や成長が目を見張るほど分かり、自分たちも一緒に支援者として成長していきたいとスタッフ一同感じて気づくことがあって良かったです。

これまで受入団体として参加させていただく中で、学生の皆様から学びと気づきをたくさんいただき、スタッフの成長に繋がったためです。

地域の方々に当法人の存在を知っていただくと共に、将来福祉の業界で働く人材の育成を考えました。

未来を担う学生に対して福島の現状やNPOという組織について知って貰うことは、団体としても非常に貴重なプログラムだと感じています。

団体内に、新鮮・柔軟な発想や非日常性を取り入れて、団体内の更なる活性化を図るためです。

インターンという外部の方が入ることにより、自団体で提供する活動について違った角度から考える機会としたいと考えたためです。

若い方に市民活動とはどんなものかを分かってもらいたいという想いがありました。

福島の未来、地域の未来は、若者にいずれバトンタッチし託します。そのため、人材育成や若者支援は、私たち大人及び地域の責任と義務だと考えます。

Q.3 チャレンジインターンシップに関して、感想や意見をお聞かせください

当団体へインターンとして来てくださった学生から学びと気づきをいただき、充実した時間を一緒に過ごさせていただきました。

NPOにとって取り組む社会課題や存在意義を理解してもらえる大事な機会です。

いまの若者は傷つきやすく、不安に立ち向かう勇気を育てる場や機会が少ないことから、インターンシップを経験できる機会や成長する場として位置づけていったら、さらに有意義な取り組みになるのではないかと感じます。

今年度も受け入れ団体として参加することができ、大変充実した取り組みとなりました。

若い世代が福島の為に活躍するフィールドを増やすこと、学びや体験を通して復興への意識を高めることは重要な観点になるかと思うので、今後も官民連携でそうした取り組みが発展していくことを願っています。

来年も参加したいです。
若い人たちにたくさん知っていただき少しでも役に立てたらと思います。

今まで気づかなかった点に気づくことができたり、非常に有意義でした。

成果を早急に望まないで、インターンシップの有り方は長く継続して行うべきだと思います。

実りのあるインターンシップが行えました。

福島を思う若い世代がいることで団体にとっても大きな刺激となりました。

多くの学生が将来の就労へのきっかけになればよいと思います。

団体としても新しい風が入ることで緊張感が生まれたり、インターン生へ指導することでスタッフのスキルアップにもつながるなど、お金にかえられない経験ができています。

令和元年度
「チャレンジインターンシップ事業」
NPO強化による復興創生事業 事業報告書

令和2年3月1日発行

発 行	福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 (県庁本庁舎5階) 電話 024-521-7179 FAX 024-521-5677
運営受託 事 務 局	認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター ふくしま地域活動団体サポートセンター 〒960-8043 福島県福島市中町8-2 福島県自治会館7階 電話 024-521-7333 FAX 024-523-2741



ふくしまから
はじめよう。

Coca-Cola
BOTTLERS JAPAN INC.

